

別々の国のアッシュとヨーヒー

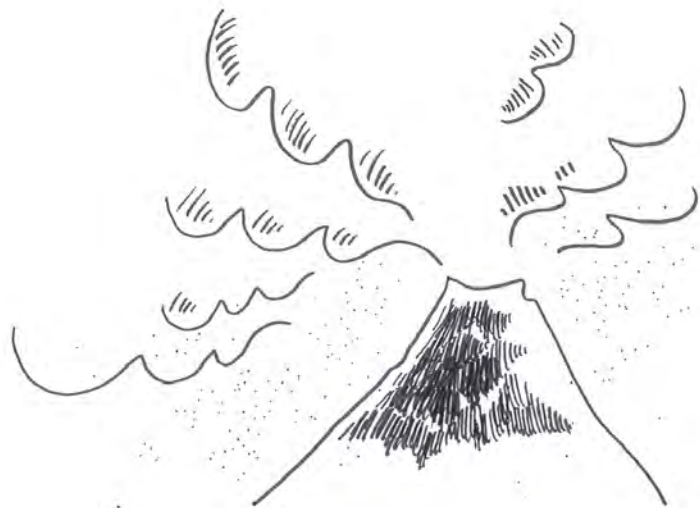
作・絵 ひらねますみ



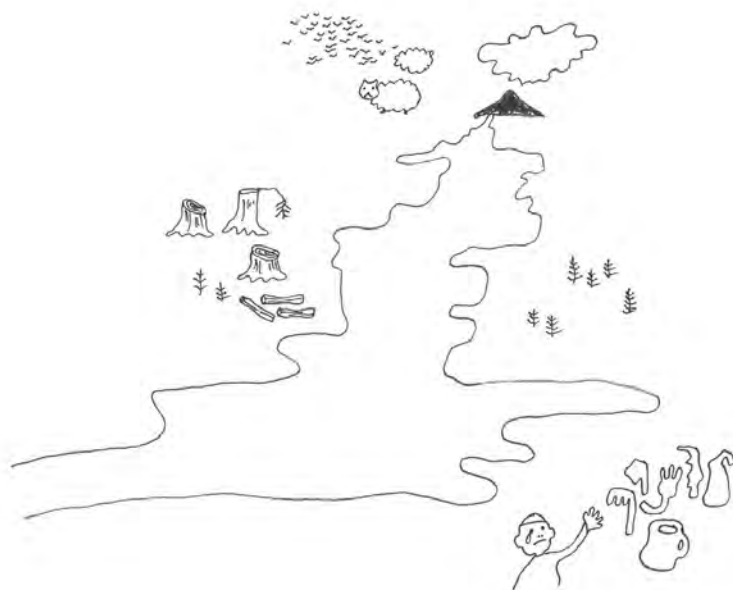
☺のお言葉はアツシエコーヒーという
☺ コーヒーのお話です。



🍵のまえに。。アッシュコーヒーに
かんけいしている
ある出来事からお話ししていきましょう。

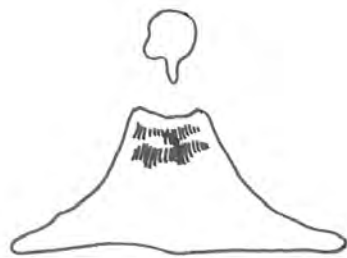


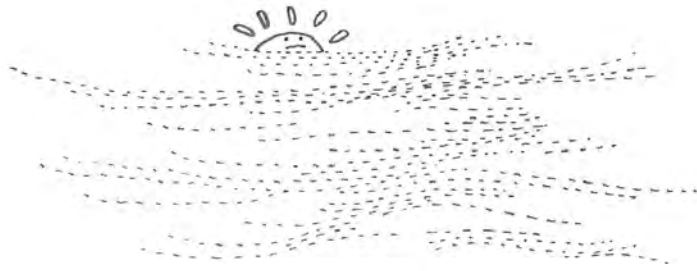
むがしむがし、
ある小さな国で
火山がふん火しました。
それはそれほども
大きなふん火で
人々の暮らしに大きな
えいきょうをあたえました。



ま ちのけしきはかわってしまい
人々は多くのものをなくしてしまいました。

しかしそれより大へんな事が起きたのです。





山の灰が太陽をかくってしまったのです!

気温はみるみるうちに下がっていきまいた。



まえ



いま

☺の寒さにより
☺多くの問題が発生しました。

太陽はどこへ行ってしまったのでしょうか？



まず食べものの問題です。
つめたい、元気のない
土地ではたしさんの
食べ物は育ちませんでした。



服もです。人々はいぜんより
あたたかい服も女子むようになり、



「じゅうまど」

↓ えももっと寒さにたえらゆるように
イ作りがえられたのです。



〇の問題について、国のみんなかぎやみ
〇 話し合いました。

はじめのころはとてとても大変でした。

やがて人々はこの時代を
「小さな氷河期」と名づけました。



しかし人はだんだんと、
生活のためのいろいろなことを見つけていきました。

あ、ここがアッシュコーヒ-のお家かい
ごじりましょう!

まだですか?



じつはこのアッシュコーヒ-が生まれた
きっかけも「小さな川に河期」でした。

まずはじめに
アッシュコーヒ-とは何でしょう？



アッシュコーヒ-とはじつは
コーヒ-とウイスキーを
混ぜた飲み物です。

いぜんん々はコーヒ-にウイスキーを混ぜたりしませんでした。
しかし小さな頃に河原町の女台まてからというものの、
からだをあたためてくれるウイスキーを
好んで飲むようになった。



たとえコーヒ-がさめてしまっても、
ウイスキーの力でからだはポカポカでした。



ウイスキーのもとである大麦は寒い土地でも
生きのびることができたため
人々にとってたいせつな飲み物になりました。

そのほか、その土地ならではの味が
つくりだされ、人々に愛されました。

そしてやがては
その国をだいたいよする飲み物になったのです。

ではここでアッシュコーヒーが
どのように生まれたかを
お話ししましょう



それはあるカフェでの出来事でした。

カフェにいた一人の男学生が寒さにたえられず、
飲んでいたコーヒーの中にウイスキーを入れてしまったのです。

男学生はおどろきました。
からだがかおろかほろかになっただけではなく、
味もとてもおいしかったからです。



の発見におどろいた男小生は
そのコーヒーをカフェにいた人々にも
すすめました。すると彼らも
その口味と交り目におどろいたのです。



アッシュコーヒーという
名前をつけたらどうだろう？



ある男小生が皮肉のように言いました。
「アッシュ」はえいごで「灰」をいめます。
おぼえていますか？この寒さの原因は
火山の灰が太陽をかくしてしまったからです。

しかしここでもう一人の
男小生が言いました



ほかの国ではもうずっと前から
ウィスキーをコーヒーに入れて飲んでいるって
聞いたことがあるよ。だからぼくたちが
名前をつけることはできないと思うな！

これを言っているあなたはもうお気づきかもしれません。
そう、よく知っているコーヒーがほかの国では
もうすでに飲まれているのです。



俺はそうだけど、これはぼくたちの国の
 ウイスキーだ、彼らはちがう
 ウイスキーをまぜているんだよ。
 だからこれはぼくたちのコーヒー、
アッシュコ-ヒーだ!!!



。。。と にかとこれがアッシュコ-ヒーが
 生まれたきっかけです。
 このことは長いあいた人々のあいたで
 言話し合われました。

おまたせしました
アッシュコーヒーです!



そして今、そのコーヒーは
「アッシュコーヒー」とよばれるようになり、
その味は今も人々にあいされつづけています。

あなたにももうおためしですか？

人は今も小さな氷河其月のなかです。
そしてアツシユコーヒーも食欠みつげられています。



もしまだ「おためしでなけいよ」
一杯いかがですか？

おわり

あとがき

「氷の国のアッシュコーヒー」を手にとりいただきありがとうございます。このお話を思いついたのは東日本大震災と原子力発電所の問題に思いをめぐらせていた時でした。ずっと先の未来を想像した時に本当に必要なものや、日本の土地と気候に適切な発電方法は何か？今だけの事や表面的な事だけに気をとられ過ぎていたり、一時的な不安の穴埋めをしていないか？。。など。

必要な事はなんだろう？私はそれは物事の本質を見る力なのではないかと思いました。

このお話にでてくる「氷の国」と「アッシュコーヒー」は実在しませんが、何世紀も前に起きた小氷河期の歴史とアイリッシュコーヒーがアイデアの元となりました。お話にでてくる人々は多くのものをなくしてしまいましたが、彼らがすでに持っていた土地、気候条件。それらに耳を傾けた結果、ウイスキーの存在の大きさに気づき、それがアッシュコーヒーを生み出すきっかけともなりました。

その土地のものだけではなく、彼らは暑い国からやってくるコーヒーを飲み続けています。コーヒーの中にウイスキーをひとたらしした彼らの小さな勇気。それは他者とのコミュニケーションを生み出す結果にもつながります。そしてアッシュコーヒーが愛され続けている理由はそれがその場所と人々のあいだで意味を成している存在だから。

地震や原発の問題以前に、私たちは日々のなかで常に選択を迫られています。だからこそ、日々を大切に、後悔のないように生きていきたいです。

この本がみなさまにとってずっと愛される存在でありますように。

この本を制作するにあたって協力してくれた皆様、本当にありがとうございました。そして小さな子たちへ。ウイスキーは大人の飲み物なので、大人になったらためしてみてね！

2013年2月11日

平山 真澄 / ひらやま ますみ

masumihirayama.wordpress.com